

農作業活動 ～「野菜の収穫、販売編」～

以前に、農作業活動として「たねまき」編をお送りしましたが、今回は成長した野菜の「収穫、販売編」として、収穫、パッキングから販売までの支援方法についてご紹介します。

収穫の作業工程にも多くの作業種があり、販売も金銭授受等、役割分担ができる作業ですので、それぞれのお子さんに合わせた活動計画が立案できるかと思えます。

今回はジャガイモを題材にしましたが、プランターで栽培したミニトマト等でも同じような活動ができるかと思えますので、環境に合わせてお試しください。

ポイント

●手順書を使用する

どのような手順で作業を進めればよいのかを視覚的に確認できるように、手順書で提示します。お子さんの理解度にもよりますが、手順書のひとつひとつの工程に絵や写真を用いて具体的なイメージを持てるようにし、自立的に作業ができるよう支援を行っています。

お子さんに応じて工程数を減らす等して、難易度にも配慮をしましょう。

〈 今回実際に使用した手順書 〉

①じゃがいもを ふくろに 入れる



★おおきいものと ちいさいものを
まぜて いれよう！

②ふくろを シールで とめる



★ふくろのくちを おりまげて
シールを はろう！

③ねだんを はる



④かごに 入れる



ポイント

●役割を分担する

お子さんの能力や特性に応じて、作業種を振り分けましょう。

収穫の際に感覚過敏等の理由から手が汚れることを嫌うお子さんには、値札のシール貼りをお願いしたり、野菜の入った袋をしぼることをお願いしたりしてみてもはいかがでしょうか。

販売にも、呼び込み、接客、お金のやりとり、商品の受け渡し等、多くの過程がありますので、お子さんそれぞれに役割を任せると達成感にもつながるのではないのでしょうか。施設内で完結する場合には、金銭を用いずにチケットでのやりとりにすれば、計算の苦手なお子さんであっても役割が増えると思います。



ポイント

●発展的な学習へつなげる

収穫から販売までの活動をした後に

- ・簡略化した流れで物流について学ぶ
- ・同じ種類の野菜について学ぶ（ナス科の植物：ジャガイモ、トマト、ナス等）
- ・収穫物で調理をする

等、関連分野につなげて活動を展開することも可能です。

